

② 幼児の思いを受け止めた適切な援助

幼児の主體的な活動を促すためには教員が多様な関わりをもつことが重要です。幼児の要求に応え過ぎないよう場面に応じて、活動の理解者、共同作業者、憧れのモデル、遊びの援助者など、様々な役割を果たすことが大切です。また、全職員が同じように対応できるよう引き続き共通理解を図る場を設定し、協力体制を築くようお願いします。

[特別支援教育]

① 一人一人の困難さの的確な把握

一人一人の幼児児童生徒のもつ困難さは多様です。それぞれに能力・適性、興味・関心、性格等が異なっており、また知識、思考、価値、心情、技能、行動等も異なっています。このような個々の特性を十分理解し、担任を中心とした複数の目できめ細かく見取ったり、検査結果等を活用したりするなど、その子のもつ困難さ（障害の種類やその程度等）の的確な把握に努めるようお願いします。



② 個に応じた適切な指導・支援の充実

個に応じた指導を充実させるためには、より適切な指導方法について校内で考えを出し合うなど、組織的な支援体制づくりを進めていくことが重要です。ケース会議などを通して全職員が共通理解しながら指導・支援にあたることはもちろん、外部の専門家からの指導・助言を積極的に活用しましょう。また、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」などは年度当初に確認したり、指導・支援した記録として年度末に残しておいたりするなど、継続的に活用するようお願いします。

[特別の教科 道徳]

① 価値観・児童生徒観・教材観を明確にした授業実践

「特別の教科 道徳」は、他教科と異なり、本時において学習することが明確に示されていません。内容項目であっても、そのものが本時のねらいではなく、児童生徒の実態や扱う資料等から一部分が本時のねらいに反映されるものです。そのため、ねらいとなる道徳的価値に対する自身の捉えや、その価値に対する児童生徒の実態、そして、価値理解に迫るための教材の活用の仕方、といった指導観を明確にもつようお願いします。



② 評価に向けた共通理解

「一人一人が本音を伝え合い、真剣に考えている」授業の中では、解説等と言われる“一面的な見方から多面的・多角的な見方へ…”や“自分自身との関わりの中で…”といった姿を見取ることが可能です。ただ、一人一人の変容を見取ることには難しさがありますので、評価の視点や見取る姿、蓄積資料(例：ワークシート、座席表へのメモ)等について共通理解を進めていただきますようお願いします。

[外国語活動・外国語]

① 中学校区での情報共有

円滑な小中学校の接続のために各中学校区における指導方法や活動内容等についての情報共有をお願いします。その際、今年度は英語教育アドバイザー教員(EAT)が郡内の各小学校に出向き、授業を参観し、授業者等と情報交換を行っていますので、より効果的な活用をお願いします。また、昨年度末に、小学校で使用される新教材が配布されました。移行期間中の年間指導計画例を吾妻教育事務所のホームページにアップしてありますので、参考にしてください。



② 場面設定や必要感を大切にされた授業づくり

教師と児童生徒または児童生徒同士が英語を使って互いの考えや気持ちを伝え合う(コミュニケーションの場)中で、児童生徒が思わず英語を「話したくなる」「聞きたくなる」ようにしていくことが大切です。そのために、英語を使う必然性のある場面設定や児童生徒に英語を使う必要感を大切にされた言語活動を計画的・継続的に取り入れて、授業づくりを充実させるようお願いします。